

# 公同礼拝

2023年6月4日(日) 午前10時30分

午後3時

司式 牧師 姜 匠米

前 奏

招 詞 詩編100編1, 2節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

詩 編 78編17~29節 (旧914)

マタイによる福音書 14章13~21節

(新28)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 12 (1, 2)

説 教 「祝福のしるし」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 228

聖 餐 式

献 金

頌 栄 542

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

## 6月の祈り

父なる神、御子イエス・キリスト、聖霊なる三つにして一つなる神のみ救いの確かさと恵み深さを覚えて。

御言葉によって創造主、救い主、祈りと慰めの主に対する信仰を確かなものとするができるように。

礼拝に集うことが困難な兄弟姉妹に主のみ手が伸べられ、信仰の歩みが守られるように。

コロナ禍からの回復が導かれるように。

戦火、紛争、圧政の下にある人々に平和と平安がもたらされるように。

## 今日の祈り

三位一体の主を信じる礼拝が力づけられ主の栄光が表されるように。

聖霊によって、礼拝と伝道が力づけられるように。体調を崩している兄弟姉妹が守られるように。

「祝福のしるし」 高橋和人

マタイによる福音書 14章13~21節

教会にもたらされた救いは民の救いだ。人に知られることも、名前が残されることも、業績が語られることもない、ひっそりと世を生きた人々だ。しかし、それが神の民となり、主の壮大な救いを明らかにした。神の愛と憐みを受けることによって。主の慈しみこそ

主イエスはヨハネの死を聞き、退いて一人になろうとされた。主は祈りのために独りになられる。人々は主イエスの船を湖の周囲から見つけ、それを湖畔伝いに遠回りしながら追った。ヨハネの理不尽な死は人々に影を落としていた。

大勢の群衆が主を待ち受けていた。主は憐み、そ

の中の病人を癒された。静かな場面だ。時間が過ぎ、夕暮れになった。夕食の時間は過ぎていく。

弟子たちは解散を提案する。空腹を抱えた大群衆だ。男五千人、つまり二万ともいえる数は周囲のほとんどの人であろう。弟子たちの提案は現実的だ。しかし主は弟子たち自身が食べ物を与えるように命じる。彼らは五つのパンと二匹の魚を持つただけであった。人の業では圧倒的に足りない量だ。人は数え、量り評価し、そして足りない。

主は群衆を座らせ、天を仰いで賛美の祈りを唱える。パンを裂いて分け与える。全ての人々が満足した。主の御業だ。主は感謝し、分け、与える。

この出来事は四福音書全てに共通している。特別に人々の記憶に残った。合理的な説明が試みられたことがあった。分け与えた行為が伝わり、皆が分かち合ったとか、霊的・精神的な満足があったという。しかし、聖書は淡々と語る。それは主イエスによる養いだ。それは教会に引き継がれている。

荒れ野のイスラエルを養ったのはマナであった。それによって、命が繋がれ、救いが繋がれていった。主は飢えと渴きを知り、御言葉によって生きることを教えた。

感謝しパンを分けられた主の姿は記憶され、主の食卓を理解するようになった。「パンをとり賛美の祈りを唱えてそれを裂き、弟子たちに与えながら言われた。『とって食べなさい、これはわたしの体である』(26:26)と。

十二の籠、それはむしろあまりのないことを示す。それは恵みを知るのには最も良い量であった。